



HIKONE CASTLE

歴史を次の時代へ。

彦根城を世界遺産に

江戸時代に築かれた彦根城は、
多くの人の努力によって困難を乗り越え、
現在まで守られてきました。
この彦根城の価値を世界に伝え、
未来へとつなぐため、世界遺産を目指します。



世界遺産登録までの
詳細はスペシャルサイトへ

彦根城を世界遺産に 

<https://www.hikonejo-worldheritage.jp/>
彦根城世界遺産登録推進協議会
(滋賀県・彦根市)

江戸時代とは

「大名統治システム」に
支えられた安定の時代

日本の江戸時代と同時代に当たる17～19世紀の世界では、戦争の多発や王朝の交替など、それまでの社会秩序が乱れる中で、各地で統治システムの再編が進みました。日本も例外ではなく、戦国時代までの混乱した社会システムが再編される過程で、世界的に見ても独特な政治の仕組みである「**大名統治システム**」が生まれました。「大名統治システム」によって支えられた江戸時代は、250年間という長く安定した社会によって、「パクス・トクガワーナ（徳川の平和）」と呼ばれる世界でも注目される時代となりました。

彦根城の価値

江戸時代の「大名統治システム」は、将軍から財源や権限を認められた大名が、地方の統治に責任を負う政治の仕組みです。大名は、地方統治の拠点として1つの城を将軍から預かりました。そして、城には地方統治を行うために必要な施設が設けられました。

城は、大名統治システムの特徴を現在に伝えている物証です。**全国に180ある城の中でも、彦根城は最もよく物証が残り、大名統治システムを体感できる城です。**

江戸時代の城の見方

平面構成 統治権力の集約

彦根城は、**堀と石垣(物証①)**によって、城の外側と区画されていました。堀の内側には、大名の住まいである**御殿(物証②)**と大名の政治に参加するすべての重臣が住む**重臣屋敷(物証③)**が作られ、御殿において話し合いにより意思決定を行いました。

また、堀の内部には、**大名庭園(物証④)**や学問所(藩校)などが設けられ、儀礼や文化活動、教育が行われました。大名と重臣たちが、城の内部に集まり、儀礼や文化活動などを通じて同じ価値観や理念を共有することで、250年にわたる安定した統治が可能となりました。

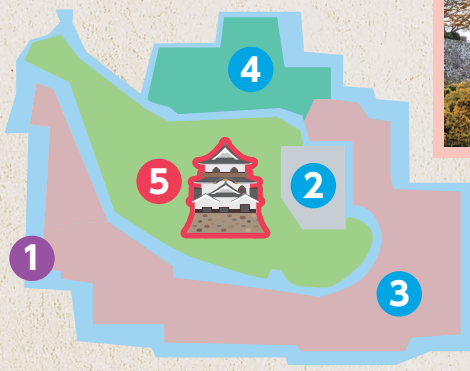
立面構成 外部への統治権力の象徴

山の上にそびえ、周辺地域のどこからでも見ることができる**天守(物証⑤)**や、城の外から**堀と石垣**、櫓、天守などが重なりあって見える**景観**は、統治権力が城にあることを**視覚的に**示していました。

① 堀と石垣



② 御殿



③ 重臣屋敷



④ 大名庭園



⑤ 天守



大名統治システムの特徴があらわれる**①堀と石垣**、**②御殿**、**③重臣屋敷**、**④大名庭園**、**⑤天守**という5つの物証は、全国180の城に共通するものでした。しかし、明治時代以降の廃城やその後の戦災により、江戸時代の政治の仕組みを体感できる**これら5つの物証をすべて備えた「城」は、現在、彦根城が唯一となりました。**

世界遺産登録までの
想定スケジュール



1992
世界遺産暫定
一覧表に記載



2020
滋賀県と彦根市が世界遺産
登録に関する協定締結



2023~2024
ユネスコの事前評価
(国際機関との対話)

事前評価の結果

事前評価制度は、諮問機関が正式な審査の前に、世界遺産登録の可能性(顕著な普遍的価値の潜在性)についての示唆を与え、登録をスムーズに行うためのシステムです。

彦根城は2024年10月の結果報告で、その価値に「世界遺産登録の可能性がある」との評価をいただきました。この結果をもってさらに彦根城の世界遺産登録を進めていきます。



2024~2025
推薦書素案を作成



2025(目標)
国内で推薦候補に決定



2026(目標)
ユネスコに推薦書を提出/
イコモスによる審査



2027(目標)
世界遺産登録

